

私たち特別委員会としては、百条委員会の権限をもって、なんとか実態解明のきっかけになるように、懸命に取り組み、法の壁に挑んだのですが、残念な結果でありました。

十二、これからのアルネビルのあり方と商店街活性化について

(各関係者の意見)

これからのアルネビルのあり方と商店街活性化について、アルネを管理運営する津山街づくり(株)、ソシオ一番街、津山商工会議所などの関係者との意見交換を行い、周辺商店街は、郊外の大型店などへ顧客が流れ、危機的な状況にあることが報告されました。

また、アルネビル内においては、天満屋が真に核テナントとしての役割を充分に果たしてもらうこと、そして、アルネ及び商店街の営業時間について、夜八時まで営業する努力が必要であることや、営業時間延長のための人材育成や派遣制



度が必要との意見もありました。

また、集客力を強める点では、中心部の土地利用の促進として、公営住宅の建設、民間建設アパートの借り上げ方式による公営住宅化、マンション等の建設などの対策を含めて「人が沢山集まる」環境整備の必要性が強く求められていると

の意見がありました。

総論としては、まちづくりにおいて重要なことは、人が住み、歩いて暮らせる安全で安心な街区の形成、市役所、郵便局、銀行、病院などの公共・公益施設の整備などが重要であり、また、こうした環境でなければ人は集まらないというのが一致した意見でありました。

(特別委員会の意見)

また、特別委員会においても、今後のアルネのあり方については、各委員から多くの意見が出ました。委員会として「まとめた意見」ではありませんが、今後のために、出された意見を紹介しておきます。

①再開発事業によって打撃を受けた周辺商店街の疲弊を危惧しており、今後の対策の必要性を強く感じているが、いずれにしても、にぎわいを取り戻すためには、商店主自らが、活性化に積極的に取り組む強い気持ちを持つことが肝要である。

②アルネビルは、三階より上層は津山市の所有となり、公共ビルとなった。今後は、税金を投入しないで、市民にとって有効な施設としての利活用の促進を図ることが重要だ。

③具体的なアルネの有効な利活用策の提案として、アルネ内に、津山教育科学博物館(自然のふしぎ館)の誘致、県や国の合同庁舎の誘致、市民窓口の一部設置などが有効だ。